

感染症等の予防及びまん延防止のための指針

令和6年4月1日
株式会社円グループ

1. 基本方針

株式会社円グループの各事業所（以下「事業所」という。）は、利用者及び従業者等（以下「利用者等」という。）の安全確保のため、平常時から感染症の予防に十分に留意するとともに、感染症発生の際には、迅速に必要な措置を講じなければならない。そのために事業所は、感染症の原因の特定及びまん延防止に必要な措置を講じることができる体制を整備し運用できるよう本指針を定めるものである。

2. 注意すべき主な感染症

事業所が予め対応策を検討しておくべき主な感染症は以下のとおり。

- (1) 利用者及び従業者にも感染が起こり、媒介者となりうる感染症集団感染を起こす可能性がある感染症で、インフルエンザ、新型コロナウイルス、感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症、腸管出血性大腸菌感染症等）、疥癬、結核等
- (2) 感染抵抗性の低下した人に発生しやすい感染症メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（MRSA 感染症）、緑膿菌感染症等
- (3) 血液、体液を介して感染する感染症肝炎（B型肝炎、C型肝炎）等

3. 感染症発生時の具体的対応

感染症が発生した場合、事業所は利用者等の生命や身体に重大な影響を生じさせないように、利用者等の保護及び安全の確保等を最優先とし、迅速に次に掲げる措置を講じる。

- (1) 発生状況の把握
- (2) 感染拡大の防止
- (3) 医療措置
- (4) 区市町村への報告
- (5) 保健所及び医療機関との連携

4. 感染症等防止対策

利用者、職員を感染から守る基本的予防法である「標準予防策（スタンダードプリコーション）」を徹底する。標準予防策は汗を除く全ての血液・体液、分泌物、排泄物、創傷のある皮膚・粘膜は伝播しうる感染性微生物を含んでいる可能性があるという原則に基づいて行われる標準的な予防策である。

【標準予防策の主な内容】

- ① 手指消毒（手洗い、手指消毒）

- ② 個人防護具（手袋、マスク、ガウン、ゴーグル、フェイスシールドなど）の使用
- ③ 呼吸器衛生（咳エチケット）
- ④ 環境整備（整理整頓、清掃、感染性廃棄物の処理）

5. 感染症対策委員会の設置

事業所内での感染症の発生を未然に防止するとともに、発生時における利用者及び家族等への適切な対応を行うため、感染症対策委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

- (1) 各事業所に1名以上を感染対策の担当者を選任し、担当者の中から委員を数名選出する。
- (2) 委員会は、年1回以上の定例会議及び緊急時の臨時会議を開催する。
- (3) 委員会では次に掲げる内容について協議する。
 - ① 感染対策の立案
 - ② 指針・マニュアル等の整備・更新
 - ③ 利用者及び従業員の健康状態の把握
 - ④ 感染症発生時の措置（対応・報告）
 - ⑤ 年1回以上の職員研修および訓練の企画、実施
 - ⑥ 感染症対策実施状況の把握及び評価

6. 従業員に対する研修の実施

事業所は勤務する従業員に対し、感染症対策の基礎的内容等の知識の普及や啓発に併せ、衛生管理の徹底や衛生的ケアの励行を目的とした「感染症の予防及びまん延の防止のための研修」及び「訓練（シミュレーション）」を次のとおり実施する。

- (1) 定期的研修
感染対策に関する定期的な研修を年1回以上実施する。
- (2) 訓練（シミュレーション）
事業所内で感染症が発生した場合に備えた訓練を年1回以上実施する。

7. 指針の閲覧

本指針は公表し、利用者、家族、職員等がいつでも自由に閲覧することができる。

附則

本指針は、令和6年4月1日から施行する。